

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

社会貢献が近江商人の目標であり本願 塚本 喜左衛門 (ツカキ・グループ社長)

- あれは 1995 年の阪神大震災のさなかです。先代の親父が言うのです。「人間、こういう時に援助を差し伸べるもの。取引先が倒産するかもしれないからといって、商品を取り返しに行ったりしてはならない。今、一番必要なものはタオル、せっけん、瀬戸物の食器だ。タオルなんて雑巾代わりにいくらでもいる。すぐに発送しなさい」。私らもつい、「送ったって、すぐには着かない。橋が倒壊してえらい時なのに」と言ってしまう。でも、親父は譲らない。「そんなもん、腐るものでもあるまいし。はよ送れ」。
- 結果的に、親父の言う通りでした。得意先から、「なんでこんなものが必要だと分かったのか。ちょうどいるところだった」と喜ばれました。これが近江商人です。我々、近江商人の多くは滋賀県の琵琶湖の東側を出身地としています。一説にはこのあたりは実業家の出現率が全国平均の 50 倍に相当すると言われています。私らの店も着物、宝石、毛皮・バックの 3 本柱と不動産事業などを展開し、150 年の歴史を刻みました。
- 近江商人が大事にする理念が「三方よし」です。売り手よし、買い手よし、世間よし。商売で大切なのは「売り手」の採算。借金せずに自分の力で立つ。でも、「買い手」のお役に立ち、いつまでも、お客様に喜んでもらわないと、それは商売じゃない。そして、商いを通じて「世間」のお役に立つ。つまり社会貢献できることが近江商人の目標であり本願です。
(参考:「日経ビジネス」2017 年 7 月 24 日号)

新規成長分野

新たな学びの場を提供

- 近年、カフェやカラオケ店などを利用し、社外で仕事や勉強をこなす社会人が増えているようだ。そんなニーズに向けた便利な新サービスも続々登場している。大阪市にオープンしたのは、会員制学習室「KH Study Room～学びの場～」。いざ勉強しようにも「家では集中できない」「カフェではドリンク代がかかる」との理由から、学習に最適な場所を求めている人は多い。
- 同施設のオーナーは、カフェのように静かで勉強に集中できる自習室でありながら、朝や夜間のみ利用できるコースを作り低価格を実現した。無料の朝食やドリンク飲み放題など、サービスも充実しており、社外で仕事に取り組みたい時にも、最適な空間となっている。

(参考:「野村週報」:2017 年 9 月 4 日号)

経営者のための経済学

若年層の住宅購入が増加

- 近年、若年層を中心に、住宅購入に踏み切る世帯が増加している。総務省の「家計調査」によると、住宅ローンを支払っている世帯の割合(2016 年)は、30 代で 47.0%、20 代以下で 20.5%と、この 5 年間でいずれも 8%も上昇している。
- 住宅ローンを抱える若年世帯の増加は、個人消費の回復の重しになっている。実際、住宅ローンを返済している世帯は、そうでない世帯に比べ、収入のうち消費に回した割合(消費性向)が 10%程度低いというデータがある。ローンを返済するために、支出を抑制しているのだ。個人消費が減少しても、住宅投資が増加しているため、景気に与える影響は中立である。問題は、「背伸び気味」の住宅購入が目立っていることだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2017 年 7 月 29 日号)

古典に学ぶ

富を成す根源は何か

「空理に走り虚栄に赴く国民は、決して真理の発達をなすものではない。ゆえに自分らはなるべく政治界、軍事界などがただぼっこせずに実業界がなるべく力を張るように希望する。これはすなわち物を増殖する務めである。これが完全でなければ国の富は成さぬ。その富を成す根源は何かといえば、仁義道徳、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。ここにおいて論語と算盤という懸け離れたものを一致せしめる事が、今日の緊要の務と自分は考えているのである」

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 図書刊行会)